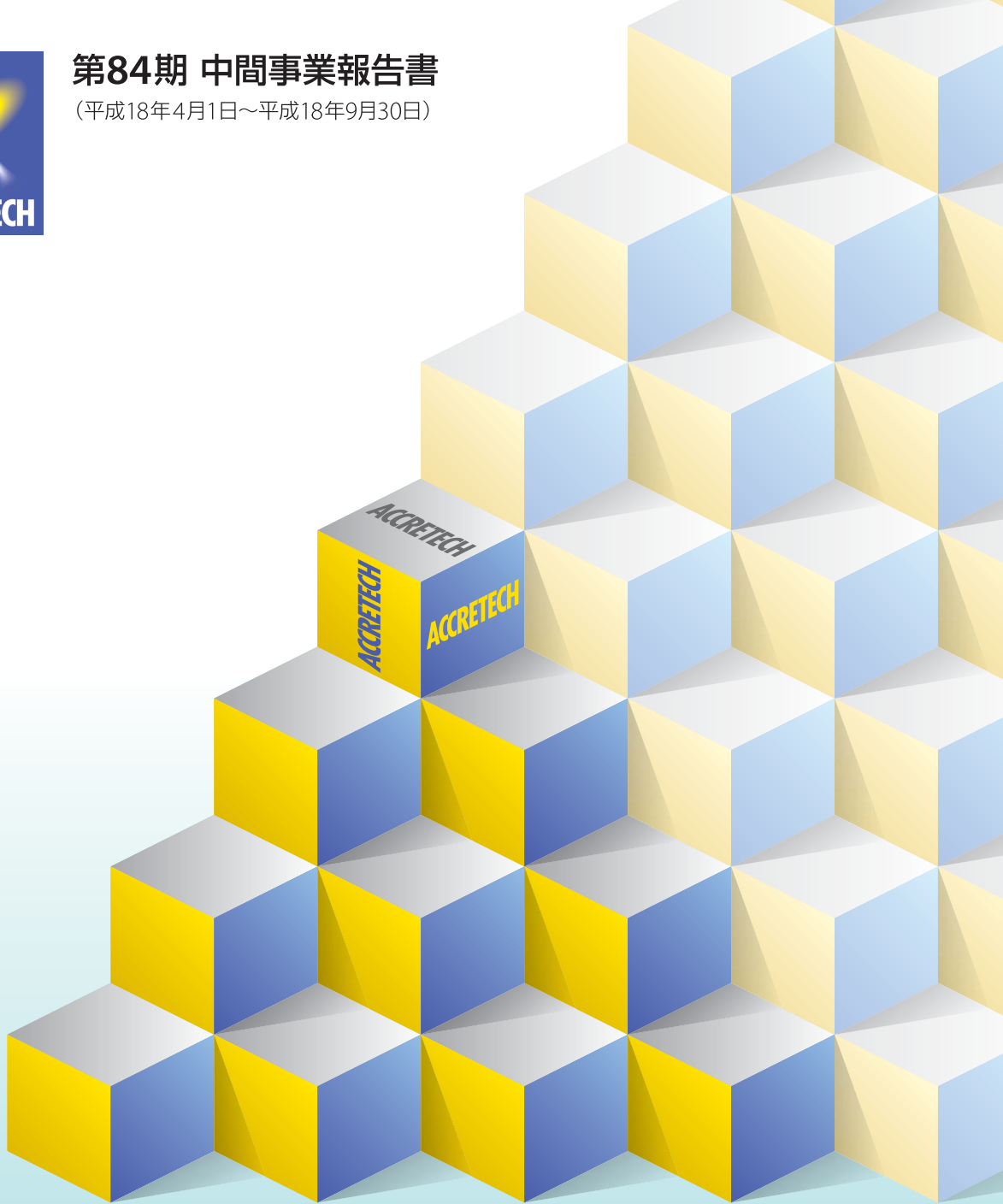




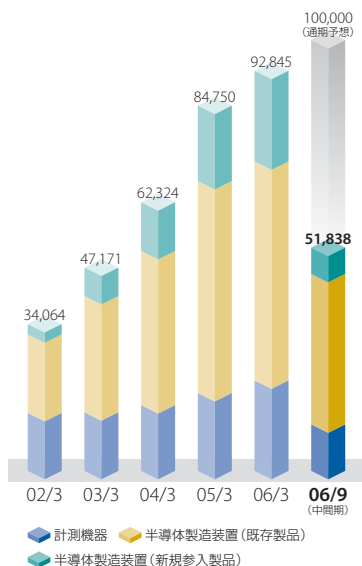
第84期 中間事業報告書

(平成18年4月1日～平成18年9月30日)

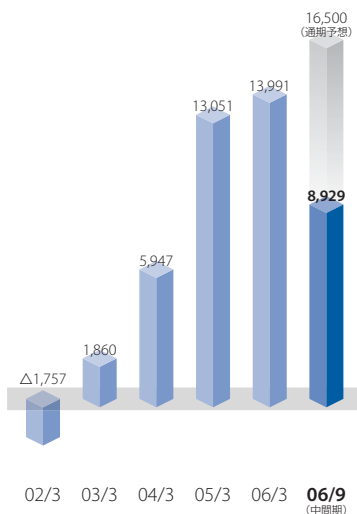


財務ハイライト

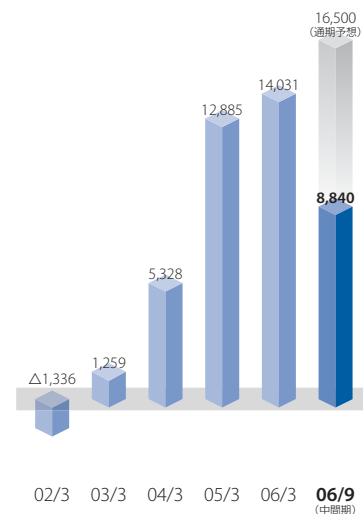
連結売上高
(百万円)



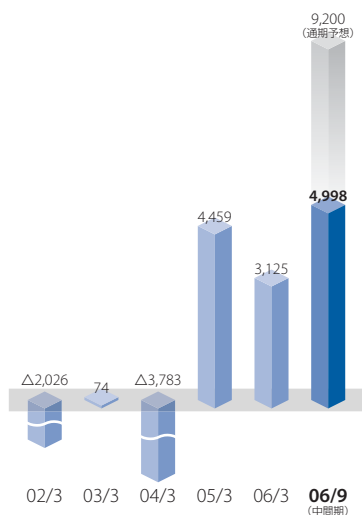
連結営業利益
(百万円)



連結経常利益
(百万円)



連結当期純利益
(百万円)



主要財務指標(連結)

経営指標		05/9 (中間期)	06/9 (中間期)
営業利益率	%	15.7	17.2
経常利益率	%	16.0	17.0
当期純利益率	%	9.3	9.6
連結従業員数	人	1,143	1,222
従業員一人当たり売上高(半期)	千円	36,802	43,380
従業員一人当たり経常利益(半期)	千円	5,877	7,398
従業員一人当たり当期純利益(半期)	千円	3,423	4,183
当座比率	%	128.6	145.9
流動比率	%	217.6	223.4
固定比率	%	80.5	55.8
固定長期適合率	%	44.0	36.4
負債比率	%	176.8	132.2
自己資本比率	%	35.2	43.0



東京精密(ACCURETECH)の株式を保有していただき、厚く御礼申し上げます。

当社は、技術指向型の会社として、常に「製品開発の原則」に則って開発を行っています。既存製品群においては、次世代市場ニーズを先取りした圧倒的差異化製品の開発をしています。また新規参入製品群においては、市場創造型オンリーワン製品の開発を進め、世界No.1の製品開発体制を整えて高収益企業となることを目指しています。

業績を測る経営指標といたしましては、一株当たりの純利益(EPS)を長期的に増大させていくことを重視しております。これを実現させていくことにより、株主の皆様と当社との間で、当社のモットーである「WIN-WIN」の関係を創り上げることができると確信しております。当社は一貫して、株主の皆様の保有目的に沿った経営を目指しております。

また、当社は2001年1月に「ACCURETECH(アクレーテク)」をコーポレートブランドとして導入いたしました。「共に成長する」という意味の“accrete”と「技術」の“technology”を合成したもので、「世界中の優れた技術・知恵・情報を融合して世界No.1の商品を創り出し、皆様と共に大きく成長していく」という当社の企業理念を表しています。

株主の皆様にも是非当社の企業理念をご理解・ご賛同いただき、コーポレートブランド「ACCURETECH」のもと、さらなる飛躍を目指す当社に、今後とも格別なるご理解とご支援をお願い申し上げます。

代表取締役社長 CEO兼COO

鈴木貞勝

FAQ 1 2006年度中間期の業績について教えてください。



ウェーハプロービングマシン(プローバ) [UF3000]

プローバは、ウェーハ上に形成された半導体チップの電気性能テストを、プローブカードを経由して半導体テストと接続し、実施する装置です。当社は、プローバの世界No.1メーカーとして、さらに高性能な製品を提供し、シェアを拡大していきます。



三次元座標測定機 [ザイザックスSVA fusion]

三次元座標測定機は、サブミクロンから5ミクロン程度までの精度で三次元の寸法を測定します。「ザイザックスSVA fusion」は、東京精密の高剛性技術を生かしたハードウェアに、カールツァイス社のセンシング技術による高精度アクティブスキニング方式プローブを搭載した、本格的な三次元座標測定機です。測定・検査時間の大幅な短縮を可能にします。

当中間期の当社を取り巻く経営環境は、半導体製造装置部門、計測機器部門共に非常に良好でした。その結果、2006年度中間期の連結売上高は、518億380百万円(前中間期比23.2%増)、連結営業利益は、89億290百万円(同35.4%増)、連結経常利益は、88億400百万円(同31.5%増)、連結当期純利益は、49億980百万円(同27.7%増)となり、いずれも半期ベースで過去最高となりました。

【半導体製造装置部門】

半導体業界は、デジタル家電、携帯電話、パソコンおよび車載デバイスなどの需要が伸びる中、半導体メーカーの設備投資は旺盛で、製造装置に対する需要も伸長しました。これを反映して、当中間期の連結受注高は、424億180百万円(前中間期比24.1%増)、連結売上高は、410億290百万円(同28.2%増)となりました。連結営業利益も、売上増加とコストダウン推進が寄与し、62億310百万円(同48.7%増)となりました。半期ベースで過去最高の売上高と営業利益になりました。

地域的に見ますと、国内の半導体メーカーの設備投資が増加し、国内向けが前中間期比50.2%増と好調でした。輸出は、台湾、中国、東南アジアおよび欧米が堅調でしたが、韓国は前年が非常に高水準であったことから、前中間期比ではマイナスとなり、輸出全体では前中間期比14.4%増となりました。

製品群で特に好調だったのは、主力製品のプローバです。メモリー系デバイスやLCDドライバ向けにチップを中心に需要が期初より非常に強く、世界No.1のプローバメーカーとして当中間期もシェアを拡大し、半期ベースで過去最高の売上高を達成し、当社業績の柱となっています。また、2004年度より販売を開始した、水やブレードを全く使わない画期的なレーザダイシングマシン「MAHOHDICING MACHINE」も、性能および生産性を高く評価され、当中間期もMEMS向けやイメージセンサ向けを中心に伸長しています。下期はさらに上期比倍増を見込んでいます。

【計測機器部門】

自動車関連産業や工作機械産業を中心に各ユーザーの好調が続き、売上が大幅に拡大しました。当中間期の受注高は111億350百万円(前中間期比3.2%増)、売上高は180億900百万円(同7.3%増)となりました。生産面でもコストダウンに注力し、当期の営業利益は、26億970百万円(同12.3%増)となり、半期ベースで過去最高となりました。

地域別に見ますと、国内は前中間期比3.5%増となり、輸出は中国向けや韓国向けが好調で、前中間期比29.4%増と大きく伸びました。

製品別では、業務提携をしているカールツァイス社(独)の解析・制御技術と当社の高剛性設計技術を融合させた三次元座標測定機「ザイザックス SVA」シリーズ、カールツァイス社製の製造ライン向け三次元座標測定機「ゲージMAX」、リアモータ採用で世界最高精度と低振動を実現した表面粗さ形状測定機「サーフコム」シリーズ、高精度で高評価を得ている真円度測定機「ロンコム」シリーズの売上が拡大しています。自動計測機器については、自動車産業の設備投資の繰り延べが、自動車の部品生産ラインなどで使用される「パルコム」シリーズの販売などに影響し、売上高は前年中間期比を若干下回りました。



ポリッシュ・グラインダ [PG300RM]

ポリッシュ・グラインダは、ウェーハの表面を研削すると同時に、ダメージ層を除去し、薄くて剛性の高いウェーハを作ります。当社のポリッシュ・グラインダは、ウェーハ薄片化市場を創造した業界のデファクトスタンダードです。

FAQ 2 2006年度通期の見通しについて教えてください。

2006年度通期の連結売上高は、1,000億円(前期比7.7%増)を予想しています。3年連続で既往ピーク更新になると共に、初めて1,000億円の大台に達する見通しです。利益については、通期の連結営業利益165億円(同17.9%増)、連結経常利益165億円(同17.6%増)、連結当期純利益92億円(同2.9倍)と予想しており、いずれも過去最高を達成できる見込みです。

【半導体製造装置部門】

当社の半導体製造装置を取り巻く環境は、パソコンや携帯電話などの需要増を背景に、半導体メーカーの設備投資意欲は強く、多少のアップダウンはあるものの、全般的には順調に推移するものと予想しています。

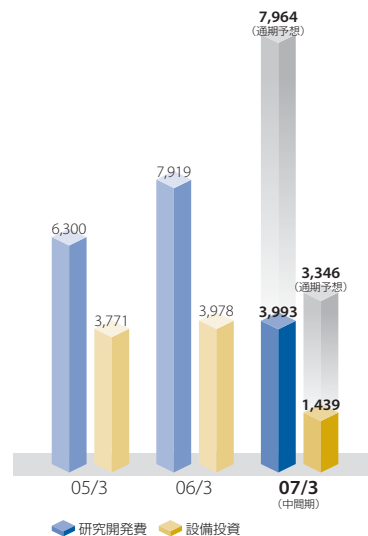
既存製品のウェーハブロービングマシンは、上期が極めて高水準であったことと、マーケットシェアが高いことなどから、市況変動の影響を受けて、下期は上期と比べると多少の減少が予想されます。一方、ポリッシュ・グラインダやウェーハ外観検査装置は、下期に需要が回復し、上期と比べて大きく売上伸長が見込まれます。しかしながら、通期では、上期の低調な市況を受けて、期初の計画を下回る見込みです。

以上のような状況のもと、半導体製造装置部門の2006年度通期の売上高は、収益認識基準の変更に伴う影響も考慮したうえで、780億円(前期比8.6%増)と予想しており、2005年度に続き過去最高となる見通しです。

【計測機器部門】

下期の計測機器のビジネス環境は、引き続き自動車関連をはじめ工作機械、ベアリングなどの各ユーザーから強い需要が見込まれ、好調に推移すると考えています。このような状況下、お客様のニーズを的確に把握し受注につなげることにより、2006年度通期の売上高は、従来公表と同じく220億円(前期比4.5%増)を予想し、4期連続過去最高を計画しています。

研究開発費／設備投資 (単位：百万円)



東京精密グループは、2006年4月から 中期経営計画「AA60 (ACCRETECH Action 60)」を スタートさせました。

当社は、創立60周年となる2009年3月までの中期経営計画「AA60」を今年4月にスタートさせました。2008年度の目標数字は、半導体製造装置部門の連結売上高1,000億円、計測機器部門の連結売上高250億円、全体の営業利益率25%です。製品グループ毎に、数値目標、その達成のための製品戦略および具体的な取り組み内容を明確にし、中期計画達成に向けて邁進しています。



どのようにして達成しますか？

半導体社



代表取締役
半導体社社長
長澤 英二

戦略

当社は、プローバ、ダイサなどの既存製品群のさらなる充実のほか、「製品開発の原則」に則り、「技術参入障壁が高く、市場が大きく、ニーズも高い分野」に新規参入し、業容拡大を図っています。

1) 製品開発

- ① 既存製品群(プローバ、ダイサ、ウェーハ製造装置): 圧倒的差異化製品を開発し、付加価値を増大させ、製品の優位性で市場シェアの継続的拡大を図ります。
- ② 新規参入製品群(ウェーハ外観検査装置、ポリッシュ・グラインダ、CMP): ポリッシュ・グラインダに代表されるような市場創造型の新製品の開発を継続し、マーケットリーダーとなります。

2) 生産体制

- ① 生産革新活動による生産性向上とコストダウンを強気に推進し、高収益化を図ります。
- ② さらなる業容拡大のため、設備投資も積極的に推進しています。

計測社



代表取締役
計測社社長
藤森 一雄

戦略

顧客満足度向上により、信頼されるブランドイメージを確立し、国内外においての市場シェアアップを実現し、国内No.1から世界No.1の計測機器メーカーを目指します。

1) 製品開発

- ① すべての製品を、性能、品質、コスト面において、世界No.1の製品にします。
- ② 海外市場におけるシェアアップのため、海外のニーズにそった製品開発をします。
- ③ 新規製品分野の開拓を行います。
- ④ 革新的要素技術の開発を行います。

2) 生産体制

- ① 顧客満足度向上のため、お客様にアンケートを実施し、具体的な対応を実施します。
- ② 徹底した無駄(物、作業、動き)の排除で、さらなる納期の短縮、コストダウン、品質の向上を実現します。

市場環境はどのように予想していますか？

半導体市場

半導体チップの使用用途は年々拡大し、現在では、パーソナルコンピューター、携帯電話、携帯音楽プレーヤー、薄型TV、ゲーム、自動車向けなど、幅広い分野、製品に使用されています。また、毎年、半導体チップに要求される性能は高機能となり、より高性能な半導体製造装置が必要となっています。当社では、半導体市場は成長市場であり、その成長は、「AA60」達成の2008年度まで、多少の上下動はあるにせよ、全般的には成長基調が継続されると考えています。



八王子工場

計測市場

当社の計測機器は、幅広い製造業の分野で使用されておりますが、近年は、特に、自動車関連業界の設備投資が活発で、当社の計測事業も2003年度以降、3期連続で売上高、営業利益共に既往ピークを更新しています。自動車メーカーを中心とする活発な設備投資の動向は、2008年度まで継続すると予想しています。同時に、当社の計測機器は製造業一般においても品質向上のために必要不可欠であることから、事業環境は、良好に推移すると考えています。



土浦工場

コンプライアンスにも取り組んでいますか？



代表取締役
業務会社社長
太田 邦正

当社は、東京精密 (ACCURETECH = 当社のコーポレートブランド) グループの全役員・社員が遵守すべき「ACCURETECH行動規範」を定め、透明性の高い清潔な企業姿勢を保ち、コンプライアンス体制を推進しています。さらに東京精密グループの全役

員・社員の職務執行が法令・定款遵守に適合することを確保するために、「コンプライアンス委員会」「情報セキュリティ委員会」「環境管理委員会」「安全衛生委員会」および「内部通報制度」などの体制を構築しています。

株主の皆様への還元は？

当社は、成長分野において、最先端技術を駆使した世界No.1商品を提供することにより、企業価値を高め、株主の皆様へ利益還元を図りたいと考えています。配当につきましては、

将来の事業展開のための企業体質強化に配慮のうえ、株主の皆様の長期的視点を重視しつつ、連結当期純利益に対する配当性向20%を目処に実施していく考えです。なお、今中間期

の配当は、前期より中間期で5円、中期で10円増配し、中間期で一株当たり25円、通期で一株当たり50円を予定しています。

表面粗さ測定機「サーフコム」シリーズ

「サーフコム5000DX」



自動車のシリンダーブロックを計測しているところ

表面粗さって?

モノの表面は、ザラザラしているものや、ツルツルしているもの、鏡のように綺麗なものなどいろいろです。この表面の凸凹のうち、細かい(短波長の)ものを「粗さ」といい、大きな(長波長の)ものを「うねり」といいます。

どうして測るの?

表面粗さ測定機が多く使用されるのは、やはり自動車部品、特にエンジン周りの部品です。主な目的には次のような点があります。

性能向上

試作品や量産品の評価で、図面に指定された表面粗さが得られているか、余分な凹凸が生じていないかを検査します。部品によっては、表面粗さが小さすぎても焼付けなどを起こしてしまい機能を満たさないものもあり、指定された表面粗さどおりに仕上がっているかどうか重要です。また、部品の使用前と使用後を比較し、磨耗の状態の評価などを行う場合もあります。

デザイン性向上

表面粗さは、見た目の印象や手触りにも大きく影響するため、私たちが使用する製品の表面も計測されて、ツヤのある滑らかな面やすりガラスのような面などの加工が施されています。

環境性向上

例えば、エンジン周りのノズルやシリンダの加工精度を上げることは、結果的に燃費効率の向上につながり、CO₂の削減に貢献します。また、車内の静粛性も向上します。

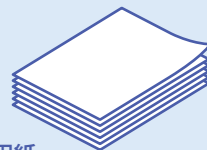
身の周りでは
どんなモノを測るの？

工業製品の品質を管理するうえで、表面粗さ測定をすることは非常に重要です。その測定対象製品は多岐に及び、身近な製品では次のような例があります。



液晶テレビのガラスうねり

歪みのない、美しい画像を映し出すために、ガラス表面のうねりをなくします。



印刷用紙

普段はあまり意識をしません、光沢感を与えるにはツルツルにしなければなりません。また、多少ザラザラになっていないとインクのノリが悪くなり、表面の粗さは印刷用紙の重要なポイントです。



食品用ラップフィルム

お皿にピタッと張り付いて、はがせばすっきりはがれるフィルムにするためには最適な凹凸があります。



薬の錠剤

表面が粗いと喉で引っかかるため、飲み込みにくくなってしまいます。逆に、ツルツルすぎると体内で溶けにくいいため、粗さのコントロールが必要です。



お化粧のファンデーション

「お化粧のノリ」を左右するのは、お肌の表面と粒子の関係です。顔の表面をモデルとして再現し、ファンデーションの研究に使われています。

このように、ある目的のために最適な表面形状を得るために、当社の表面粗さ測定機「サーフコム」シリーズは多種多様な業界で使用されています。その精度は、高精度モデルになると、なんと10ナノメートル(10億分の1メートル)にもなり、人間の感覚ではおよそ分からない表面の形状を測定し、データ化します。

これからも当社の表面粗さ測定機「サーフコム」シリーズは、ますます高精度にますます広範囲な用途で活躍していきます。

中間連結財務諸表

注：中間連結財務諸表の数値は百万円以下を切り捨てて表示しています。

中間連結貸借対照表

単位：百万円

科目	前連結会計年度末 (06.03.31)	当中間連結会計期間末 (06.09.30)
流動資産	81,067	89,978
固定資産	28,807	28,391
有形固定資産	14,317	14,848
無形固定資産	4,837	4,212
投資その他の資産	9,653	9,331
資産合計	109,875	118,370
流動負債	38,099	40,277
固定負債	25,072	27,024
負債合計	63,172	67,301
資本金	9,447	—
資本剰余金	20,466	—
利益剰余金	15,399	—
その他有価証券評価差額金	1,340	—
為替換算調整勘定	139	—
自己株式	△ 90	—
資本合計	46,703	—
負債・少数株主持分及び資本合計	109,875	—
株主資本	—	49,536
資本金	—	9,515
資本剰余金	—	20,535
利益剰余金	—	19,582
自己株式	—	△ 97
評価・換算差額等	—	1,376
その他有価証券評価差額金	—	1,221
為替換算調整勘定	—	155
新株予約権	—	156
純資産合計	—	51,069
負債純資産合計	—	118,370

中間連結損益計算書

単位：百万円

科目	前中間連結会計期間 (05.04.01～05.09.30)	当中間連結会計期間 (06.04.01～06.09.30)
売上高	42,083	51,838
売上原価	29,207	36,017
売上総利益	12,875	15,821
販売費及び一般管理費	6,282	6,891
営業利益	6,593	8,929
営業外収益	434	159
営業外費用	308	248
経常利益	6,720	8,840
特別利益	114	155
特別損失	8	472
税金等調整前中間純利益	6,827	8,522
法人税・住民税及び事業税	2,543	2,313
法人税等調整額	145	1,210
少数株主利益	223	—
中間純利益	3,914	4,998

中間連結キャッシュ・フロー計算書

単位：百万円

科目	前中間連結会計期間 (05.04.01～05.09.30)	当中間連結会計期間 (06.04.01～06.09.30)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,108	4,872
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,622	△ 1,483
財務活動によるキャッシュ・フロー	2,365	△ 1,547
現金及び現金同等物に係る換算差額	46	54
現金及び現金同等物の増加(減少)額	△ 1,101	1,895
現金及び現金同等物の期首残高	11,838	13,851
現金及び現金同等物期末残高	10,737	15,747

中間連結剰余金計算書

単位:百万円

科目	前中間連結会計期間 (05.04.01~05.09.30)
資本剰余金の部	
資本剰余金期首残高	12,017
資本剰余金増加高	—
資本剰余金減少高	—
資本剰余金中間期末残高	12,017
利益剰余金の部	
利益剰余金期首残高	13,596
利益剰余金増加高	3,914
中間純利益	3,914
利益剰余金減少高	572
配当金	562
取締役賞与金	9
利益剰余金中間期末残高	16,938

中間連結株主資本等変動計算書

単位:百万円

当中間連結会計期間 (06.04.01~06.09.30)	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
前連結会計年度末(06.03.31)残高	9,447	20,466	15,399	△ 90	45,223
当中間連結会計期間中の変動額					
新株の発行	68	68			136
剰余金の配当			△ 801		△ 801
取締役賞与			△ 14		△ 14
中間純利益			4,998		4,998
自己株式の取得				△ 7	△ 7
自己株式の処分		0		0	1
株主資本以外の項目の変動額(純額)					
当中間連結会計期間中の変動額合計	68	68	4,182	△ 7	4,312
当中間連結会計期間末(06.09.30)残高	9,515	20,535	19,582	△ 97	49,536

当中間連結会計期間 (06.04.01~06.09.30)	評価・換算差額等			新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算差額等 合計		
前連結会計年度末(06.03.31)残高	1,340	139	1,479	—	46,703
当中間連結会計期間中の変動額					
新株の発行					136
剰余金の配当					△ 801
取締役賞与					△ 14
中間純利益					4,998
自己株式の取得					△ 7
自己株式の処分					1
株主資本以外の項目の変動額(純額)	△ 119	16	△ 103	156	53
当中間連結会計期間中の変動額合計	△ 119	16	△ 103	156	4,365
当中間連結会計期間末(06.09.30)残高	1,221	155	1,376	156	51,069

中間財務諸表(個別)

注:中間財務諸表(個別)の数値は百万円以下を切り捨てて表示しています。

中間貸借対照表(個別決算)

単位:百万円

科目	前会計年度末 (06.03.31)	当中間会計期間末 (06.09.30)
流動資産	69,105	75,522
固定資産	26,484	26,619
有形固定資産	9,704	9,966
無形固定資産	1,460	1,038
投資その他の資産	15,320	15,614
資産合計	95,589	102,142
流動負債	34,520	35,502
固定負債	22,773	24,917
負債合計	57,293	60,420
資本金	9,447	—
資本剰余金	16,821	—
利益剰余金	10,776	—
その他有価証券評価差額金	1,340	—
自己株式	△ 90	—
資本合計	38,295	—
負債及び資本合計	95,589	—
株主資本	—	40,344
資本金	—	9,515
資本剰余金	—	16,889
利益剰余金	—	14,035
自己株式	—	△ 97
評価・換算差額等	—	1,221
その他有価証券評価差額金	—	1,221
新株予約権	—	156
純資産合計	—	41,721
負債純資産合計	—	102,142

中間損益計算書(個別決算)

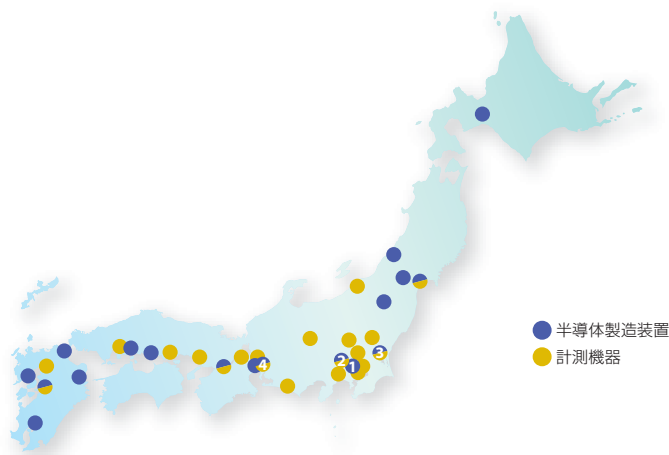
単位:百万円

科目	前中間会計期間 (05.04.01~05.09.30)	当中間会計期間 (06.04.01~06.09.30)
売上高	37,558	45,064
売上原価	28,182	33,888
売上総利益	9,375	11,176
販売費及び一般管理費	4,443	4,789
営業利益	4,932	6,386
営業外収益	536	484
営業外費用	221	171
経常利益	5,247	6,699
特別利益	20	155
特別損失	4	472
税引前中間純利益	5,264	6,382
法人税・住民税及び事業税	1,831	1,401
法人税等調整額	△ 23	919
中間純利益	3,456	4,060

ネットワーク

国内主要拠点

(営業所・サービスステーション)



1 本社 (業務会社)



2 八王子工場 (半導体社)
㈩アクレーテックマイクロテクノロジー



3 土浦工場 (計測社)



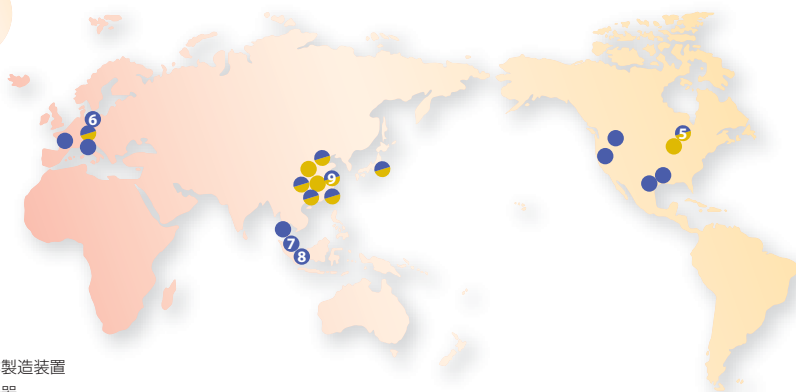
3 ㈱東精エンジニアリング
本社・工場



4 ㈱東精エンジニアリング
名古屋工場

海外主要拠点

(営業所・サービスステーション)



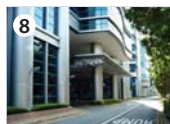
5 Accretech USA, Inc.



6 Accretech
(Europe) GmbH



7 Accretech
(Malaysia) Sdn. Bhd.



8 Accretech
(Singapore) Pte. Ltd.



9 Accretech
(China) Co., Ltd.

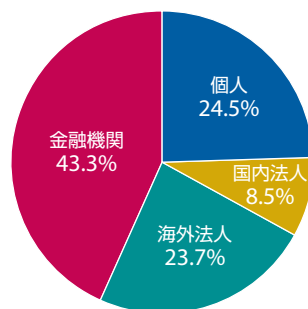
商号	株式会社 東京精密 (TOKYO SEIMITSU CO., LTD.)	
設立	昭和24年3月28日	
資本金	9,515,870,415円	
証券取引所	東京証券取引所 市場第一部	
発行可能株式総数	110,501,100株	
発行済株式の総数	40,141,517株(うち、自己株式数27,539株)	
株主数	21,071名	
役員 (平成18年6月29日現在)	代表取締役社長 CEO兼COO	鈴木 貞勝
	代表取締役 計測社社長	藤森 一雄
	代表取締役 半導体社社長	長澤 英二
	代表取締役CFO 業務会社社長	太田 邦正
	取締役グループCIO	梅中 茂
	取締役	ウォルフガング ボナツツ
	取締役	グレッグ セバスチャン
	取締役	吉田 均
	取締役	木村 龍一
	監査役(常勤)	高城 英明
	監査役	吉儀 肇
	監査役	山本 清次
	監査役	久富 眞志
	監査役	川原 栄次
従業員数	675名(単体) 1,222名(連結)	
主要取引銀行	みずほコーポレート銀行	大手町営業部
	三井住友銀行	本店営業部
	みずほ信託銀行	本店営業部
	三菱東京UFJ銀行	新宿中央支社
	常陽銀行	土浦支店
	関東つくば銀行	本店営業部
	りそな銀行	吉祥寺支店

事業所	業務会社	東京都三鷹市
	半導体社	東京都八王子市
	計測社	茨城県土浦市
営業所	東北(宮城県仙台市)	長野(長野県岡谷市)
	○ 山形(山形県山形市)	浜松(静岡県浜松市)
	茨城(茨城県土浦市)	名古屋(愛知県三好町)
	宇都宮(栃木県宇都宮市)	小牧(愛知県北名古屋市)
	埼玉(埼玉県さいたま市)	京滋(滋賀県守山市)
	東京(東京都三鷹市)	◎ 大阪(大阪府吹田市)
	○ 東京(東京都八王子市)	加古川(兵庫県加古川市)
	西東京(東京都八王子市)	岡山(岡山県岡山市)
	川崎(神奈川県川崎市)	広島(広島県広島市)
	新潟(新潟県燕市)	九州(福岡県福岡市)
	厚木(神奈川県厚木市)	○ 九州(大分県大分市)
	北陸(富山県富山市)	
	(注)◎:全製品取扱 ○:半導体製品取扱 無印:計測製品取扱	

株式の状況

主要株主名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	6,121	15.2
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	2,389	6.0
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,071	2.7
財団法人精密測定技術振興財団	1,058	2.6
株式会社みずほコーポレート銀行	840	2.1

所有者別状況(株式数比率)



株主メモ

決算期 毎年3月31日
定時株主総会 毎年6月中 基準日毎年3月31日
その他必要あるときは、あらかじめ基準日を公告いたします。
株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱所 〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
☎0120-288-324 (フリーダイヤル)
同取次所 みずほ信託銀行株式会社 全国各支店
みずほインベスターズ証券株式会社 全国各支店
株式取扱手数料 名義書換 無料
新株券交付 無料
公告 当社ホームページ、または日本経済新聞に掲載します。



キリトリ線

郵便はがき

1 8 1 - 8 7 9 0

料金受取人払

三鷹局承認

864

差出有効期限
平成19年3月
31日まで

東京都三鷹市下連雀9-7-1

株式会社 東京精密
業務会社 総務室 宛



ホームページも
ぜひご利用ください。

皆様のお役に立つ情報の掲載を目指しています。新しいコンテンツも随時追加しておりますので、どうぞご覧ください。

【当社ホームページ】

<http://www.accretech.jp>

または、検索エンジンで

「東京精密」と検索してください。



【お勧めコンテンツ】

- 中間決算説明会の音声配信
説明会当日夜より3ヶ月間、説明会での発表資料と音声を配信しています。
[HOME>>「中間決算説明会の音声配信はこちら」をクリック!](#)
- ACCRETECHへのあゆみ
1949年の創業からこれまでの当社の歴史を紹介しています。
[HOME>>会社案内>>ACCRETECHへのあゆみ](#)
- 環境・社会への取り組み
環境との調和による地球にやさしい仕事をめざす当社の取り組みを紹介しています。
[HOME>>会社案内>>環境・社会への取り組み](#)

TOKYO SEIMITSU
<http://www.accretech.jp>